

授業科目	生活支援科学特論		担当教員	青山 宏・古川 孝順・古賀 靖之・安田みどり	
展開方法	講 義	単 位 数	2単位 必修	開設時期	1年前期
【授業目標】					
<p>本研究科が研究教育の対象とする生活支援の核心にある生活（ライフ）は、本来的に生命、日々の暮らし、生涯（人生）という3通りの次元を同時に内包するとともに、身体の健康や機能の維持、こころの健康や機能の維持、所得の確保、住居の確保、人権やプライバシーの確保、家族関係、地域社会関係、職業生活、余暇活動など多様な領域をもっている。人びとの生活にたいする支援を適切に行うには、このような生活の機能や領域、それらを研究、支援の対象とする諸科学のありようについて関心を持ち、学習する姿勢と方法が必要とされる。生活支援科学特論は本研究科における研究教育の基本、前提を学習することを目的としている。最初の1時間において、そのことを確認し、社会福祉学、健康栄養学、臨床心理学、リハビリテーション学という各領域の議論に入る準備を行う。</p>					
【授業方法】					
講義のほか、検討課題に関するディスカッションを行う。					
【授業計画】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援科学の視点と概要（古川孝順） 2. 生活支援における社会福祉の位置と役割（古川孝順） 3. 生活支援における社会福祉のニーズ（古川孝順） 4. 生活支援における社会福祉の理念と目標（古川孝順） 5. 生活支援における食・栄養の位置と役割（安田 みどり） 6. 社会の視点からみた食・栄養（社会の変化に伴う健康・栄養状態の変遷）（安田 みどり） 7. 人間栄養学と生活の視点からみた食・栄養（医食同源と生活習慣病）（安田 みどり） 8. 生活支援におけるメンタルヘルスの重要性（古賀 靖之） 9. ライフサイクルから見たメンタルヘルスの課題と援助（古賀 靖之） 10. ストレスとストレスマネジメントについて（古賀 靖之） 11. リハビリテーションの立場から見た、人の健康、生活とその障害（青山 宏） 12. 生活支援を目指したリハビリテーションについて（青山 宏） 13. 生活支援を目指した作業療法の機能と役割（青山 宏） 14. 事例検討（担当者全員） 15. 事例検討及びまとめ（担当者全員） 					
【評価方法】					
出席状況のほか、発言、発表、討論レポート等の状況を総合的に見て評価を行う。なお、担当教員4名それぞれに25点分を振り分け、合算して成績を算出する。					
【教科書・参考書】					
<p>教科書 特になし、その都度資料を用意する。</p> <p>参考書 特になし、その都度資料を用意する。</p>					
【学生に期待すること】					
講義をただを聞くという受け身の姿勢でなく、積極的に自らの考え、意見、主張を持つことを期待したい。					